



茨城県地域臨床 教育センターだより

2022
Vol.41

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 令和4年3月1日発行(第41号)

茨城県地域臨床教育センター退任の挨拶



教授

穂積 康夫

専門領域 ■ 乳腺・内分泌外科

2015年(平成27年)10月に赴任し、6年余にわたってセンター教員として勤めさせて頂きましたが、この度2022年3月末をもちまして退任することとなりました。

この間、大学の教員としては、筑波大学附属病院へ定期的にカンファランスに出席し、レジデント教育の一翼を担い、後述の附属病院から派遣される若手医師の教育も行っております。また、チュートリアルを始めとした学生教育にも携わりました。

2016年4月から、筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科原教授、坂東准教授のご尽力で、同科から定期的に若手を派遣して頂けることになり、現在に至っています。また、呼吸器外科から転科希望の北原医師が仲間に加わり、彼女の頑張りもあり、最短で認定医・専門医を取得することも出来、今では当科の中核メンバーになっています。

臨床の本務である県立中央病院においては、赴任時に私がやりたいこととして「臨床試験を中心とした臨床研究を開始できるようにすると共に、県央地区の乳癌診療のコアになるようにしたい」という目標を掲げました。

臨床試験を行うという目標は、臨床研究管理センターの協力もあり、比較的スムーズに開始出来ました。まずはCSPOR-BCとJBCRGという2つの全国規模の臨床試験グループに参加し、いくつかの臨床試験に加わることになり、各試験への症例登録も始められま

した。さらに、全国の癌領域のコア施設で組織されているJCOGへも数年で参加が認められ、積極的に症例登録を行い、全国でも登録上位施設にランキングされるようになりました。

診療面で乳癌診療において県央地区のコアとなると言う点については、残念ですが症例数は未だ一番にはなっていません。しかし、再発例を含めて様々な状況下での薬物療法を当科で行うようになり、多くの施設からの紹介が増えております。更に特筆すべきこととして、私の赴任に先立ってセンター教員として赴任した、遺伝専門医でもある小児科の齋藤准教授の尽力で、遺伝外来が設立したことです。県内に2つしかないHBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)診療の基幹病院として活動を開始出来ました。2020年4月から保険診療となり、婦人科の協力の下、RRSO(リスク低減卵巣卵管切除術)を施行し、形成外科の協力の下RRM(リスク低減乳房切除術)や放射線診断科の協力でMRガイド下生検も施行可能になりました。

センター教員としては退任しますが、しばらくは非常勤の身分で県立中央病院に勤務する予定です。これからも宜しくお願いします。

最後に筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科の原教授、坂東准教授、そして当院への派遣に快く応じてくれた、松尾先生、佐々木先生、朝田先生、澤先生、田地先生、中村先生、竹内先生、一戸先生、藤原先生、林先生に感謝いたします。



茨城県地域臨床教育センター赴任の挨拶

呼吸器外科 准教授
菊池 慎二

専門領域 ■ 呼吸器外科

2021年11月1日に筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター、茨城県立中央病院呼吸器外科に着任いたしました菊池慎二と申します。筑波大学附属病院在職中は公私とも格別のご厚情を賜りましたこと、この場をお借りしましてあらためて厚く御礼申し上げます。

茨城県地域臨床教育センターは鈴木保之センター長がお示になっている通り「茨城県北・県央の地域医療体制の整備」を目的として開設されました。私は茨城県出身ですので、この度、地元の地域医療に携われる機会を頂けたことを大変光栄に思います。しかしながら正直に申しあげますと、私は日立市のなかでも河原子という田舎の方の育ちですので、水戸市の隣町である笠間が「地域」という印象ではありません。さらに、実際に茨城県立中央病院に勤務して2か月が経過し、その診療体制の充実ぶりに深く感銘を受けております。

私が医師となり25年が経過しようとしていますが、その間に肺がん診療は劇的に変化しました。私が大学を卒業した1997年には遺伝子研究による個別化医療の時代が来るのではないかと盛んに議論されていました。そして、私が大学院に入学してがん遺伝子研究に取り組んでいた2004年には、肺がんにおいてEGFR遺伝子の変異が高頻度に起きており、分子標的治療薬が極めて高い奏効率を示すことが明らかとなり、それまでとは全く違う薬物療法の世界の扉が開けました。さらに、2014年に保険適応となった免疫チェックポイント阻害薬の登場は、臨床病期III A期の非小細胞肺癌の治療方針を再考させるほどのインパクトを残しています。そんな時代の流れのなかで、我々が今最も大切にしなければならないことは、患者さん一人一人の治療方針をあらゆる観点から突き詰めて検討し、最善の治療方法を選択できる診療体制にあると思われま。茨城県立中央病院には呼吸器センターが設立されており、呼吸器外科、呼吸器内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科などの複数の科が密接な連携をとっております。適

度な規模の病院であるためか、毎週のカンファレンス以外でもシームレスな連携をとることが可能であり、様々な病態に対して最善の治療が提供できることが当病院の強みであると言えます。また、看護師、薬剤師、理学療法士をはじめとした医療スタッフが、それぞれにプロフェッショナルな知識と技術を身に付けて診療にあたっており、患者さんに寄り添った肺がん診療を「チーム医療」として実施する環境が整えられています。さらに、当病院呼吸器外科は、多施設共同研究を行う日本臨床腫瘍グループ(JCOG)に参加しており、肺がん診療の問題点を全国の医師と共有してその解決法を探り、がん治療の進歩を目指していく姿勢を大切にしています。

呼吸器外科医としては、やはり、手術の腕を磨き続けることが生涯をかけての目標です。手術技術の向上には手術の経験数が必要であることは言うまでもありません。茨城県立中央病院は肺がん手術のハイボリュームセンターとして県内トップクラスの手術件数があります。呼吸器外科医一人当たりの手術経験数は、県内はもとより全国的にもトップクラスにあるものと思われま。肺がん手術は、1951年にCahanによって発表されたRadical Pneumonectomyという論文にも示されているように、脈々と引き継がれている基本概念があります。そして現在の手術では「根治性」「安全性」に加えて「低侵襲(痛みの軽減)」が強く求められています。茨城県立中央病院呼吸器外科グループは呼吸器センター副センター長の清嶋護之先生を中心として、これまで当病院に関わられた先生方によって築き上げられた土台があり、この3つの概念のバランスを追求した医療を実践しています。研修医の先生方や医学部の学生さんには、肺がん診療の質の向上を目指しながら学び続けることができる最高の環境があるものと思われま。外科医の基本は、安全な手術のために技術を磨き、最良の治療を行うために常に謙虚に学び続けることだと考えま。手術を通して命と向き合うことを考え、患者さんの笑顔から医療の喜びを感じてほしいと考えています。

このたび、お世話になった筑波大学と地元のために働ける機会を与えて頂いた喜びを強くかみしめております。この恵まれた環境で、諸先生方に教えを頂きながら、まずは少しでも早く地域医療を支える力を身に付けること、そして、医療の進歩のために私ができることを考えて実践していくことを目標に頑張りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻頂けま。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/chiiki/cyubyo/>

茨城県